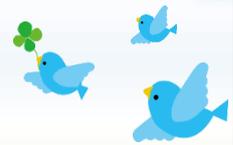


研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp

研修講座 B-2 特別支援教育

「かんしゃくや感情爆発をくり返す子どもの理解と支援について」

【講師】 三重大学教育学部 教授 松浦 直己 先生

8月1日（木）に三重大学教育学部の教授松浦先生をお招きし、研修講座「特別支援教育」を実施しました。

はじめに、暴力行為の発生件数が、小学校において全国的に年々増加傾向にあるという問題提起がありました。それは、学校の教育環境が大きく影響していて、様々な行動の問題を発達障害や愛着障害であると安易に決めつけたり、拡大解釈していて、適切な支援ができていないことが関係しているという話がありました。その一つに挙げられるのが感情の衝動制御の障害であり、多くは小さなストレスで大きなかんしゃくを引き起こす「反抗挑発症」とそのかんしゃくが暴力などに発展する「間欠爆発症」に分けられること、その症状を見分けるにはどの行動様式がいくつ当てはまるか、持続性と回数はいくつあるかによって見分けることができるということを教えていただきました。

では、感情爆発がある児童・生徒には、どのような教育を行っていけばよいのでしょうか。それは、児童・生徒が感情のセルフコントロールを身に付けることが大切であり、そのためにはルールを透明度を高める、やるべきことを明瞭化するなど教育環境の構造化に取り組むことが必要であることを学びました。また、担任だけが教育環境の構造化に取り組むのではなく、学校全体で取り組むことが児童・生徒の行動変容につながり、さらには認知の歪みも改善されることが分かりました。



これらの話から、児童生徒との人間関係を構築した上で、指導者を中心に学校全体で教育課程の構造化をはかっていくことが大切であることを改めて感じました。本講座で学んだことを各校で還流いただくとともに、学校全体で共通理解を図っていただきますようよろしくお願いいたします。

アンケートより 【一部抜粋】

- ・「これはしてはいけない」「これをしなくちゃいけない」というルールは担任だけでなく、学校全体で統一して行うことで安心、安定できる場を作らなければならないと思いました。学級、学校全体で行動規範意識を大切に、子どもたちに少しずつ覚えさせ、定着させたいと思いました。自分自身のソーシャルコントロールをしっかり持って、律とした姿勢で子どもたちと接していきたいと思いました。(小)
- ・「障害を持っているから」「特性だから」という理由で逃げて、生徒自身の認知のゆがみに対して目を背けていたことに気づきました。かんしゃくを起こす、セルフコントロールをしにくい子どもへの対応の仕方として、最初の環境設定が重要だと思いました。ルールを一貫、明確化することで余計な混乱を避けることができることを学びました。私は、衝動制御の力をつけられるように指導していきたいと思いました。(中)

